

(財) 京都ボーイスカウト振興会 平成22年度事業報告

1. 事業の状況

(1) 広河原野営場の整備、利用状況

(ア) 整備状況

倉庫屋根部分の葺き替え改修工事等を実施

(イ) 利用状況

使用者	使用月日	使用人数	備考
山開き	4/3-4	30	イベント委員会
WB研修所開設協	5/2-5	16	イベント委員会
京都第90団	5/8-9	16	RS隊
野営場整備	7/17-18	28	イベント委員会
京都第72団	8/12-15	52	RS隊
冬こもり	11/27-28	31	イベント委員会
京都第92団	2/13	62	CS隊、BS隊、VS隊、保護
京都第7団	2/7	35	イベント委員会
京都第5団	3/5-6	40	CS隊、BS隊
合計	20日	のべ310名	

(2) 京都連盟への助成

(ア) ボーイスカウト講習会

名称	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
期日	4月18日	6月27日	9月26日	10月17日	11月7日	3月13日
会場	中京区地域 福祉センター	宇治市 中央公民館	本門仏立宗 本山宥濟寺	西京区総合庁舎 洛西支所	綾部市中筋 コミュニティセンター	上一条寺 集会所

(イ) ウッドバッジ実修所・研修所

名称	WB研BVS京都第9期	WB研CS京都第34期	団運営研修所京都第9期
期間	5/2~5	5/2~5	9/18~20
会場	花背山の家	京都市静原キャンプ場	友愛の丘

(ウ) 事務局経費の助成

(3) その他適当とする事業

(ア) 第15回日本ジャンボリー支援

# 平成22年度 事業報告

	22年度 事業方針	評価・反省	課題(次年度引継事項)
基本方針	スカウト仲間だけでなく地域の仲間と共にスカウト運動の楽しさを広げていこう！		
重点目標	<p>団の支援体制を推進し、団機能の充実を図る。</p> <p>スカウト運動の基本をしっかりと実践する。</p> <p>外に向けてスカウト運動の使命、目標をアピールする。</p> <p>第15回日本ジャンボリーをみんなで成功させ、地域や世界の仲間との輪を広げる。</p> <p>京都連盟創立100周年へ向けての準備を推進する。</p>	<p>セミナーの開催や、地区団委員長フォーラムに参加して相互のコミュニケーションが図れた。</p> <p>菊スカウト、富士スカウトが誕生したが、地区においてかたよりがある。</p> <p>認知度のアップのために、「スカウトの日」の取組みをマスコミに取り上げていただく等、諸団体、行政等との交流に努めた。</p> <p>8ヶ隊320名の参加で成功裏に終了した。期間中は多くの仲間と交流し、友情の輪を広げることが出来た。</p> <p>第59回京都キャンボリーの開催準備を通じて、また「スカウトの日」を100周年まで継続して開催する。</p>	<p>団担当コミッショナーの活用が不十分である。</p> <p>上進率のアップにつながる様に努力する。</p> <p>継続して努力する。</p> <p>2年後の第16回日本ジャンボリーに向けて準備を進める。</p> <p>継続して実施する。</p>
組織の充実に関して	<p>団の組織活性化・拡充への支援を図る。</p> <p>学校教育を含めた地域社会と融合し友好と一層の連携を深め多くの子どもたちにスカウトプログラムの提供をコミッショナーと協働し推進を図る。</p> <p>加盟員数に見合った組織構成の適正化を検証・研究に取り組み、未組織地域への団新設をコミッショナーと協働し調査・支援・協力を図る。</p>	<p>京都団委員長セミナーを改名し、京都団委員セミナーを開催し団委員の役割と重要性について再認識を図った。団委員長以外の団委員の参加が少なく、PR不足と感ずる。</p> <p>一斉隊集会の開催時に組織委員会として協力し、募集活動を実施。今後とも、BSの募集活動として実施していきたい。</p> <p>登録人数が減少傾向にある状況から各地区・団の意見、課題を検証している。意見の集約が不十分。未組織地域活動として、12月に井手町で発団への問い合わせがありコミッショナーより説明を行っています。</p>	<p>団委員の強化により、団委員長を補佐し、団活性化を推進できる人材の育成を継続的に続けていく。</p> <p>全体隊集会の運営に協力しながら、BSの募集活動を充実していく。(例：居住地域と団の活動地域)</p> <p>団・地区・京連として活動目的にあった適正な組織構成について研究していく。未組織地域の団新設について支援協力をしていく。</p>
広報活動の充実に関して	<p>加盟員間のコミュニケーション 団内のメール通信により、情報交換を緊密にする。</p> <p>対外広報 ウェブサイトの充実、B. P. Pressの発行により、地域社会へ生き生きした活動の様子を伝える。</p> <p>パートナーシップの構築 スカウト出身者を中心に、スカウト運動のファンを再発掘する。</p>	<p>団あてのメールは7回発信した。</p> <p>ウェブサイトは振興会に一本化した。B.P.Press 10月号は限定発行、3月号は全加盟員数を発行した。</p> <p>スカウト出身者に絞った取り組みは出来なかったが、人づくり21世紀委員会、野外力検定等により、他団体との協調関係を築いた。</p>	<p>メール通信の定期発信を目指し、各団にメリットを感じてもらおう。</p> <p>京都連盟オリジナルの、PR用リーフレットを作成する。</p> <p>団が地域で存在感を高めるために何が出来るか、資料をまとめ、セミナーを開催する。</p>
重点施策 指導者養成に関して	<p>新指導者訓練体系について 新訓練体系への移行の準備期間という認識に立って定型・定型外訓練開設方法についてトレーニングチームと連携して検証を図る。</p> <p>定型外訓練への参加推進 隊リーダーの指導力向上や各種技能の習得を図る。その為、通常の地区開催以外に連盟主催での開催を模索する。</p> <p>ボーイスカウト講習会の活用 ボーイスカウト講習会が指導者導入訓練としての基本は崩さず、対外的な広報活動の一部分として活用できるよう、組織・広報委員会と連携する。</p>	<p>新訓練体系については平成24年に実施すると決まっているが未だその骨子が決まっていない。</p> <p>トレーニングチームのタスクチームにおいて定型外訓練のプログラム企画を行い、地区からの要望に応えられるよう準備を行っている。地区においての定型外訓練実施支援については積極的に進めている。</p> <p>指導者養成委員会として定型訓練への参加奨励をおこなった。案内についても京都連盟のHPに案内・申込用紙を掲載し奨励を図った。</p>	<p>近畿ブロック内での情報交換を密に行い新訓練体系が平成24年にスムーズに移行できるよう定型・定型外訓練開設方法の準備を進める。</p> <p>地区から定型外訓練開催の要望が出るよう施策を考えなければならぬ。</p> <p>今後案内については申込締め切り日1ヶ月前には団に案内文を発送し、定型訓練の開催の周知徹底を図る必要性を感じた。より多くの人に開催を周知していただくために広報委員会との連携を図りたい。</p>
進歩・プログラムに関して	<p>進級面接会・記事の授与式・各種のセレモニー・の重要性に認識 一連団内行事が、なおざりにならぬようきめ細かく実施されるようアピールする。</p> <p>技能章講習会の充実・技能章取得の促進 ・技能章講習会受講者の増員を図る。新規講習会研究を図る。 ・信仰奨励講座より信仰奨励章交付→宗教章への導き</p> <p>国際関連の進歩支援 ・チャレンジ章・ターゲットバッジ・技能章への積極的挑戦 ・世界の仲間と交流できるよう自分の得意分野を身につける ・目標が通じなくても自分の持つスキルで交流する</p>	<p>地区内の進歩委員会にて「What is Shinpo」の統合せにて認識された。</p> <p>新しい講座として、茶道章講習会を開催した。国際交流のスキルアップ。信仰奨励講座を改称して「信仰ふれあい講座」親しみやすさを強調するようにした。</p> <p>直接のプログラムへの支援は出来なかった。日本文化を学ぶ講座は、開催できた。</p>	<p>全地区で、進歩委員会を実施して「What is Shinpo」を統合せを実施する。</p> <p>新しい講座の研究。 信仰ふれあい講座受講者の促進。</p> <p>他の部門と協同（国際委員会）して模索する。</p>
イベント	<p>第15回日本ジャンボリー派遣業務の遂行 23WSJを見据えた大会として15NJは開催され、運営方法が大幅に見直される中、派遣に必要な準備を推進し、15NJ派遣を成功裏にへるよう貢献すると共に、京都連盟創立100周年の年に開催される23WSJに向けた地盤づくりを推進する。</p>	<p>期間中は怪我等も発生したものの概ね問題なく終了した。今回は新たな取り組みの大会となったが、事前の準備や大会中の運営面では次回への課題も浮き彫りになったものの、参加者の努力で成功裏に終わった。</p>	<p>2年後の第16回日本ジャンボリーに向けて、15NJでの新たな試みに対する課題や反省材料を基に準備を進める。又、来年間催される第11回日本アグナリーに向けての準備を進める。</p>

イベント	<p><b>野営場の維持改善の推進</b></p> <p>静岡、広河原両野営場の諸設備の老朽化部分の改修を進めるため、関係箇所との調整業務および整備活動に努め、安全でより充実したスカウト活動が展開できる環境を提供する。</p>	<p>野営場の改修については、京都ボーイスカウト振興会のおかげで、広河原野営場キャビンの屋根補修を実施できた。その他に定例の整備活動で静岡キャンプ場の館入り口の階段設置などを実施。引き続き維持改善に努める。</p>	<p>広河原野営場では、雷害により大きなダメージを受けたが、山開きをはじめ定例の整備活動などで整備を実施し、活動に支障が出ないように努める。又、備品整備を推進し、情報の提供にも努める。</p>
国際教育の推進に関して	<p><b>第23回世界スカウトジャンボリーに向けての取り組みと推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際プロジェクト、海外派遣プログラムへの参加促進を図り、世界スカウトジャンボリーにむけての国際理解を推進する。</li> <li>海外スカウト受入協力体制の整備と拡充（ホームステイ受入家庭の充実と受入スカウトとの交流プログラムの支援）を図る。</li> </ul> <p>「ウエルカム・ザ・ワールド」プロジェクトの理解と参加促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ウエルカム・ザ・ワールド」プロジェクトに隊・団単位で参加し、世界のスカウトの一員としての意識を高める。</li> <li>加盟員の定着・拡大を視野に、「ウエルカム・ザ・ワールド」プロジェクトをうまく活用する（国際性を生かしたプログラムを活用）。</li> </ul>	<p>第22回世界スカウトジャンボリー派遣への理解を図った結果、30名にも及び応募を得られた。その他、ローバースカウトが、バングラデシュとウガンダで国際貢献に努めてくれた。</p> <p>日韓スカウト交歓計画による、韓国スカウト40名を受入、ホームステイプログラムを行い国際交流を図る。</p> <p>全ての団・隊とはいかないが、理解のある団・隊ではこの事業に取り組み、世界のスカウトの一員として意識を高めている。</p> <p>国際理解・国際交流が盛んな団は、国際理解を深めると同時にスカウト数の定着及び拡大に繋がっている</p>	<p>第22回世界スカウトジャンボリー派遣を実施し、その経験をした彼らが次の世界スカウトジャンボリー派遣に繋がるような国際理解を推進する</p> <p>日韓・日米スカウト交歓計画に伴うホームステイプログラムを引き続き推進し、国際交流を図る。</p> <p>より一層の「ウエルカム・ザ・ワールド」プロジェクトの理解と参加促進を深め、第23回世界スカウトジャンボリーへの参加意欲を高める</p> <p>国際性を活かしたプログラムを、コミッショナーと共に考え、それを活用及び広げていき、国際理解を図りたい</p>
財政に関して	<p><b>財政基盤強化拡大への努力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本連盟維持会員・京都ボーイスカウト振興会維持会員・ボーイスカウトカード加入促進に努力する。</li> <li>経費削減などの更なる努力をする。</li> <li>需品の開発販売に努力する。</li> <li>安定的な財源確保に向けての方策の検討をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本連盟維持会員協力依頼額2月末で100.2%達成。ボーイスカウトカード利用も25%増額。支援者の増強に努力協力した。</li> <li>経費削減に努力、協力した。</li> <li>需品販売前年度より40%増額した</li> <li>種々検討中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き利用を促進する。</li> <li>引き続き努力、協力する。</li> <li>引き続き開発販売に努力する。</li> <li>引き続き財源確保に向けて研究努力する。</li> </ul>
環境教育の推進に関して	<p><b>京都府の環境プログラムを開発する。</b></p> <p>団の支援体制の推進に向けて環境プログラムの提供を検討する。</p> <p><b>環境セミナーの開催を行う</b></p> <p>環境がスカウト運動の基本として認識されるようアピールする。</p>	<p>「全体ラウンドテーブル」で各隊から「環境プログラム」を収集しようと募集したが、集まらなかった。</p> <p>「環境フォーラム」「森林愛護活動」を通じてアピールしてきたが、参加者が増えることがなかった。</p>	<p>再度各地区のコミッショングループに依頼し、各地区単位で収集活動をお願いし、京都府の「プログラム集」を作成する。</p> <p>環境行動を広くアピールし環境フォーラム・森林愛護活動の参加者を増やす努力をし、認識を深めていく。</p>
安全教育の推進に関して	<p><b>活動中の安全対策の強化を図る</b></p> <p>指導者を対象とした救急法・安全法の講習会を充実する。</p> <p><b>地域に根ざした安全活動を展開する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時における社会参加・率仕を奨励する。</li> <li>医療チームの充実を図り地域との連携を強化する。</li> </ul> <p><b>救急法講習会開設チームの一層の充実を図る</b></p>	<p>22年度は15NJ派遣前と23年2月に成人リーダーを対象とした安全法講習会が開催できた。</p> <p>医療チーム員は年度初めに更新し、また年度内に新規チーム員も加入。社会福祉協議会から参加依頼のあった京都府総合防災訓練やボランティア研修などに参加した。</p> <p>東日本大震災の発生に伴い「京都から元気を送ろう」運動の推進を実施中である。</p> <p>新規委嘱もあり、一定の充実が図られた。</p>	<p>更に内容の充実した講習会を開催する。</p> <p>東日本大震災の発生に伴い京都府等行政やボランティア支援センターと密接な関係を築き、ボランティアや社会参加を奨励出来るように推進する。</p> <p>各地区に均等なチーム員が配置できるように更に充実を図る。</p>
青少年元氣サポート事業の推進に関して	<p><b>特別の支援を必要とする青少年活動について一層の理解を深める。</b></p> <p>「アウトドアチャレンジ」活動を推進する。</p>	<p>スペシャルオリンピックスとの交流により日本アグリーナリーへの参加の声かけを行っている。</p> <p>発達障がいのある児童に対する取り組みは、全体集会においてコミッショナーチームが中心となって実施した。反省点としては、連盟内の情勢を把握する必要がある。</p> <p>他団体の協力により「野外力検定」京都会場の開催ができた。これを機会に幅広く一般の青少年に呼びかけを行ってゆきたい。</p>	<p>アグリーナリーへの参加をスカウトおよびリーダーに呼び掛ける。また他団体にも呼びかけを行う。</p> <p>発達障がいのある子どものボーイスカウトへの入団の推進に取り組む。そのためには各リーダーにより一層の勉強が必要と思われる。</p> <p>平成22年度の経験を生かして、23年度は2回ほど開催の予定である。</p>